

しずおかフィナンシャルグループ  
2023年度 第1四半期決算の概要

2023年 8月

**Xover**  
— 新時代を拓く

# 2023年度第1四半期決算の概要（連結）

(億円、%)	2023年度 第1四半期	前年同期比※1	
		増減額	増減率
<b>連結粗利益</b>	<b>444</b>	<b>+65</b>	<b>+17.1</b>
営業経費（△）	262	+8	+3.3
持分法投資損益	5	+3	+131.9
<b>連結業務純益※2</b>	<b>186</b>	<b>+61</b>	<b>+48.8</b>
与信関係費用（△）	15	+6	+60.1
株式等関係損益	59	△9	△13.5
<b>連結経常利益</b>	<b>233</b>	<b>+42</b>	<b>+22.2</b>
特別損益	△0	△2	△117.6
税引前純利益	233	+41	+21.2
法人税等合計（△）	68	+21	+43.5
<b>連結四半期純利益※3</b>	<b>165</b>	<b>+20</b>	<b>+14.0</b>
ROE	5.6	+0.3	—

※1 2022年度第1四半期以前は静岡銀行連結決算

※2 連結業務純益＝静岡銀行単体業務純益＋連結経常利益－静岡銀行単体経常利益

※3 親会社株主に帰属する四半期純利益

**連結粗利益 444億円（2期振り増益）** ※1

静岡銀行単体の業務粗利益の増加（前年同期比＋61億円）を主因に（同）＋65億円増加

**連結業務純益 186億円（2期振り増益）** ※1

営業経費が増加するも、業務粗利益、持分法投資損益等が増加し（同）＋61億円増加

**連結経常利益 233億円（2期連続増益）** ※1

**進捗率 29.1%**

個別貸倒引当金繰入額が増加、株式等関係損益が減少した一方で、業務純益が増加し（同）＋42億円増加

**連結四半期純利益 165億円（4期連続増益）** ※1

**進捗率 29.4%**

経常利益の増加により（同）＋20億円増加

# 主要グループ会社の業績

## 静岡銀行単体

(億円、%)	2023年度 第1四半期	前年同期比	
		増減額	増減率
<b>業務粗利益</b> (コア業務粗利益)	414 (400)	+61 (△37)	+17.2 (△8.5)
資金利益	331	+18	+5.6
役務取引等利益	70	+10	+17.3
特定取引利益	2	△4	△67.4
その他業務利益	12	+37	△145.2
(うち国債等債券関係損益)	(14)	(+98)	(△116.6)
(うち外為売買損益)	(△4)	(△63)	(△107.5)
経費(△)	238	+6	+2.6
実質業務純益	176	+55	+45.0
<b>コア業務純益(除く投信解約損益)</b>	<b>162</b>	<b>△41</b>	<b>△20.2</b>
一般貸倒引当金繰入額(△)	△6	△6	—
<b>業務純益</b>	<b>183</b>	<b>+61</b>	<b>+50.2</b>
臨時損益	47	△19	△28.5
うち不良債権処理額(△)	17	+10	+152.6
うち株式等関係損益	60	△9	△12.8
<b>経常利益</b>	<b>229</b>	<b>+42</b>	<b>+22.7</b>
特別損益	△0	△2	△117.6
税引前四半期純利益	229	+41	+21.7
法人税等合計(△)	60	+19	+47.7
<b>四半期純利益</b>	<b>169</b>	<b>+22</b>	<b>+14.5</b>
与信関係費用(△)	10	+4	+53.8

## 静岡銀行以外の主要グループ会社

(億円)	静岡経営コンサルティング		静岡リース	
	2023年度 第1四半期	前年同期比	2023年度 第1四半期	前年同期比
<b>売上総利益</b>	<b>3</b>	<b>+1</b>	<b>8</b>	<b>△0</b>
経費(△)	3	+1	4	△1
<b>経常利益</b>	<b>1</b>	<b>+0</b>	<b>5</b>	<b>+1</b>
<b>四半期純利益</b>	<b>1</b>	<b>+0</b>	<b>3</b>	<b>+0</b>

	静岡キャピタル		静岡ティーエム証券	
	2023年度 第1四半期	前年同期比	2023年度 第1四半期	前年同期比
<b>売上総利益</b>	<b>1</b>	<b>+0</b>	<b>18</b>	<b>+1</b>
経費(△)	1	+0	13	+0
<b>経常利益</b>	<b>0</b>	<b>△0</b>	<b>5</b>	<b>+1</b>
<b>四半期純利益</b>	<b>△0</b>	<b>△0</b>	<b>4</b>	<b>+1</b>

## 主要グループ会社の取組状況

### 静岡経営コンサルティング

主力のM&A部門は堅調に推移。新たにコクレジット業務を開始したほか、DXコンサルの専担者採用などにより幅広い顧客ニーズへの対応力を強化

### 静岡リース

与信関係費用を中心に経費が減少し増益。2023年6月より、新たにカーボンオフセットリースの取扱いを開始

### 静岡キャピタル

外部専門人材を採用し、投資先企業への支援体制を強化。2023年6月末には名古屋銀行とのアライアンスファンド(総額5億円)を設立

### 静岡ティーエム証券

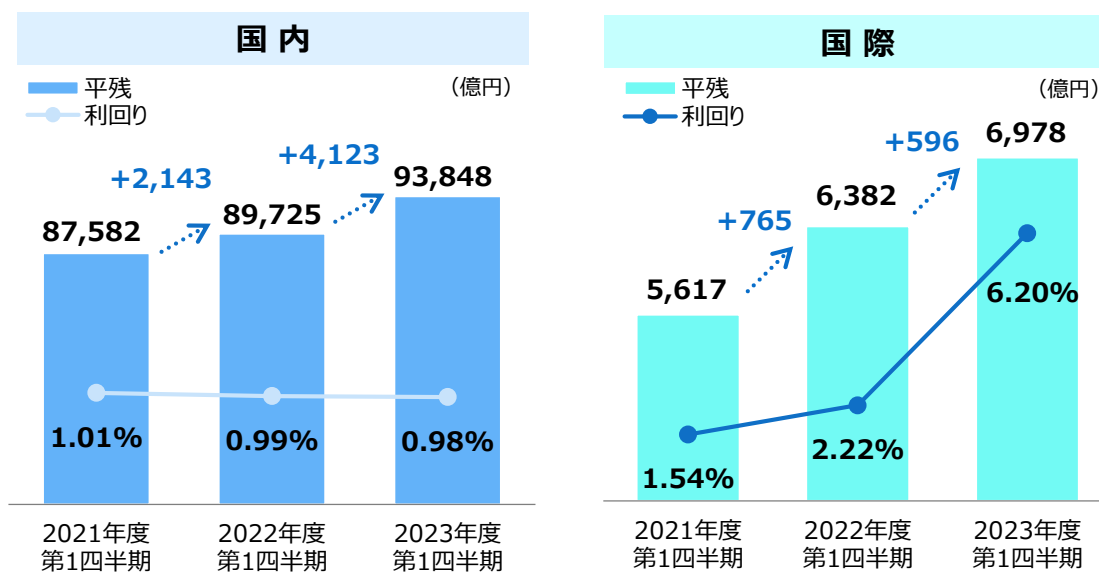
相場環境の改善を背景に、投信・ラップを中心に販売額が増加し増益。引き続き、新NISA制度の開始を見据え、ストック収益の拡大に取組み中

資金利益は、国内業務部門の順調な推移に加え、国際業務部門が増加に転じたことにより、全体で+18億円増加

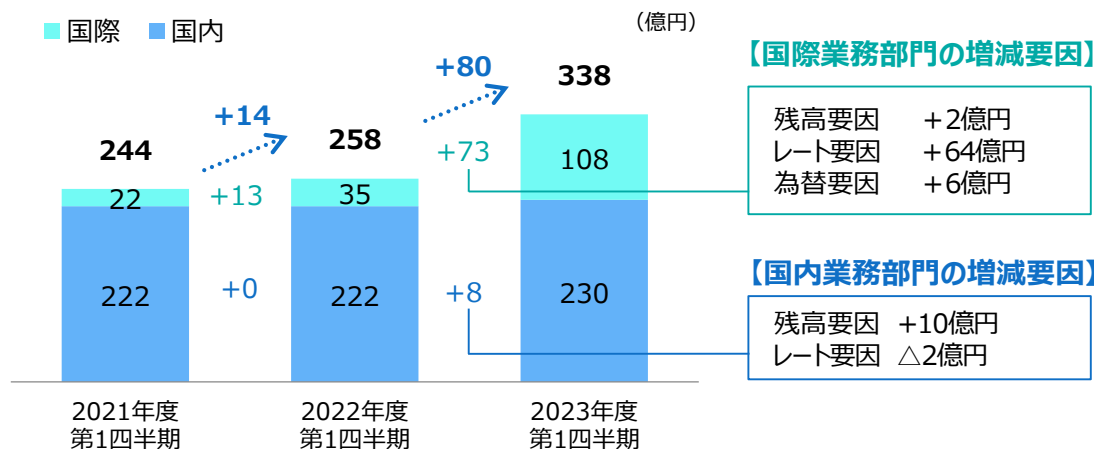
## 資金利益の内訳

(億円)	2021年度 第1四半期	2022年度 第1四半期	2023年度 第1四半期	前年同期比
<b>資金利益</b>	<b>311</b>	<b>313</b>	<b>331</b>	<b>+18</b>
国内業務部門	288	293	306	+14
貸出金利息	222	222	230	+8
有価証券利息配当金	66	67	78	+11
うち債券	5	9	22	+13
うち投信	5	0	0	±0
資金調達費用(△)	3	2	6	+3
うち預金等利息(△)	3	3	2	△0
その他	3	6	4	△2
国際業務部門	23	21	25	+4
貸出金利息	22	35	108	+73
有価証券利息配当金	15	18	58	+40
うち債券	12	14	57	+43
うち投信	2	4	1	△3
資金調達費用(△)	14	36	181	+145
うち預金等利息(△)	3	14	96	+82
その他	1	4	40	+37

## 貸出金残高 (平残)・利回り推移



## 貸出金利息の推移



# 貸出金（静岡銀行単体）

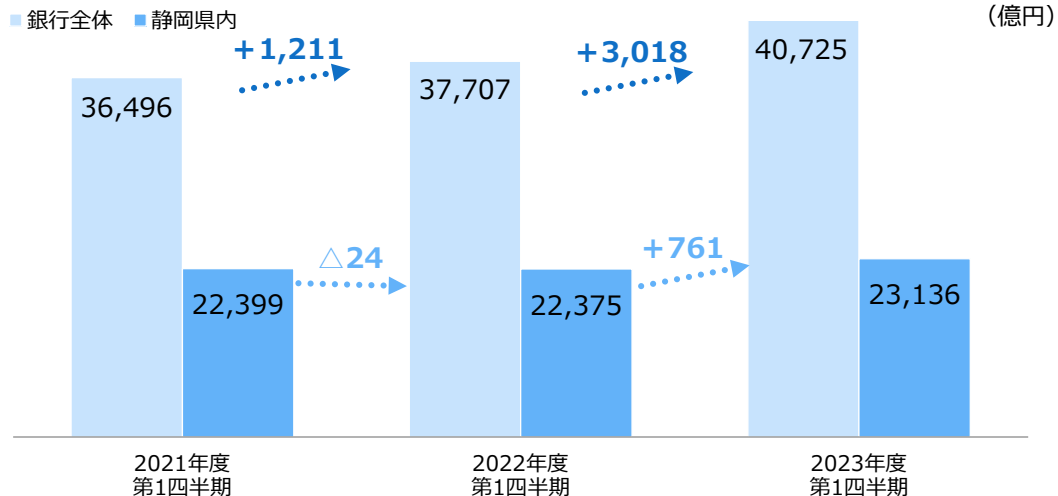
総貸出金残高は中小企業向け・消費者ローンを中心に増加し、平残は10兆円の大台に到達（年率+4.9%）

## 貸出金残高（平残）

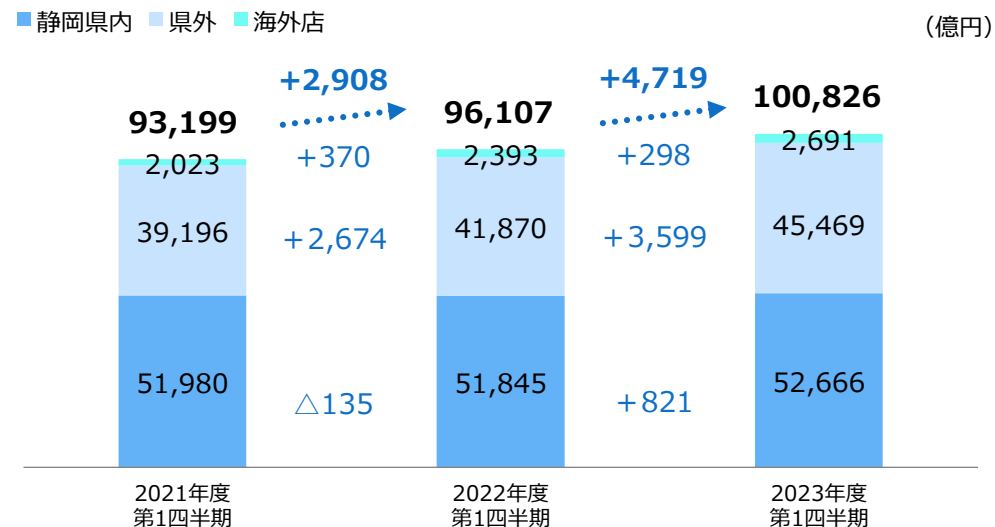
	2023年度 第1四半期	前年同期比 増加額	年率
総貸出金	10兆826億円	+4,719億円	+4.9%
中小企業向け貸出金	4兆725億円	+3,018億円	+8.0%
大・中堅企業向け貸出金	1兆8,552億円	+120億円	+0.6%
消費者ローン	3兆7,722億円	+1,414億円	+3.8%
外貨建貸出金	6,525億円	+507億円	+8.4%

残高要因 +139億円 為替要因 +369億円

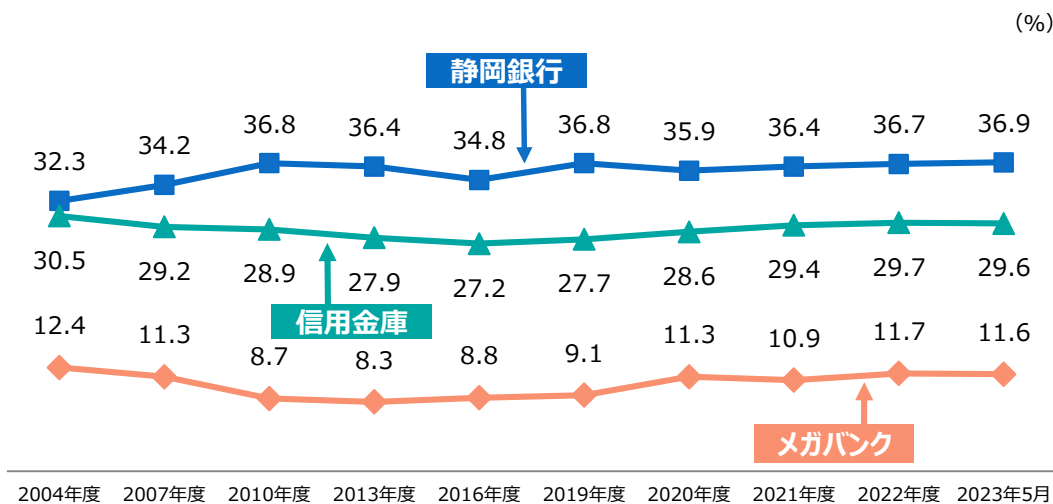
## うち中小企業向け貸出金残高(平残)の推移



## 貸出金残高（地域別内訳）



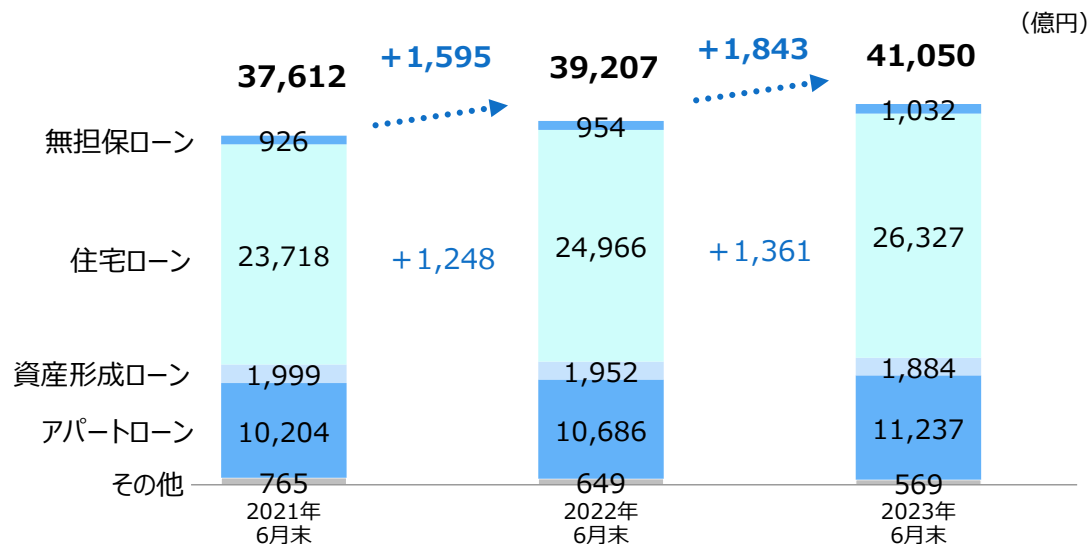
## 静岡県内貸出金シェアの推移



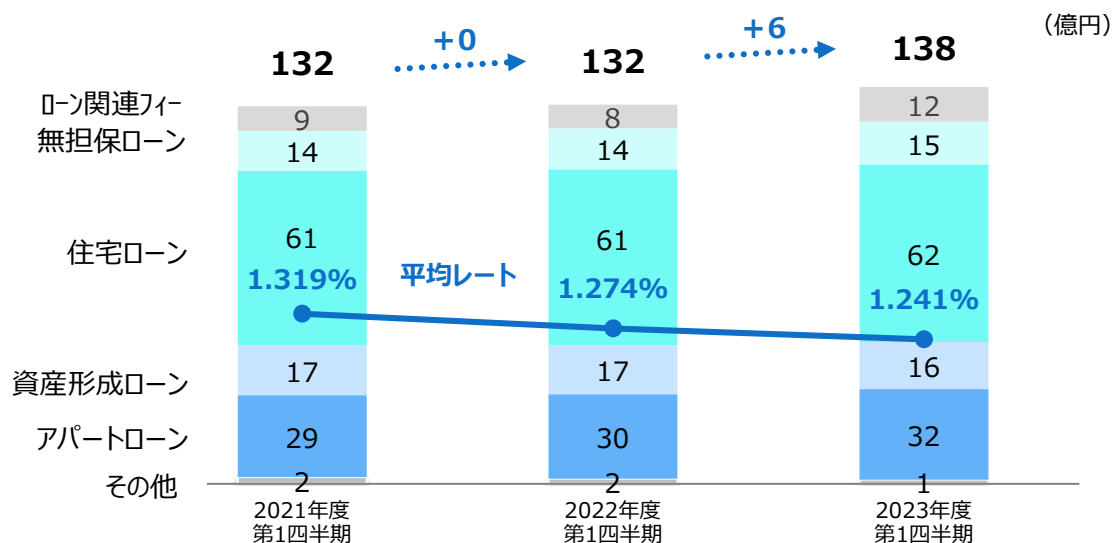
# 住宅ローン、アパートローン等（静岡銀行単体）

## 住宅ローン、アパートローン等残高は増加基調を維持

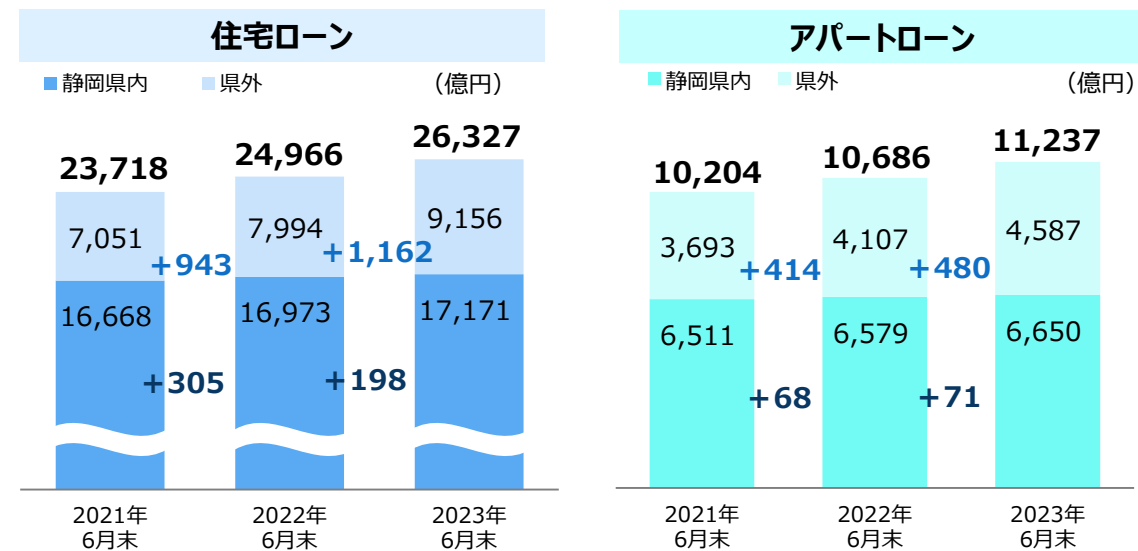
### 未残推移



### 利息額、手数料およびレート推移



## 住宅ローン・アパートローンの地域別残高(未残)



### 延滞率・入居率の状況

延滞率（3か月以上）	2021年6月末	2022年6月末	2023年6月末
住宅ローン	0.13%	0.10%	0.13%
アパートローン	0.03%	0.03%	0.02%
資産形成ローン	0.23%	0.21%	0.34%

賃貸用不動産入居率	2019年12月末	2020年12月末	2021年12月末
静岡県内	92.7%	92.5%	93.5%
県外	93.2%	93.3%	94.1%



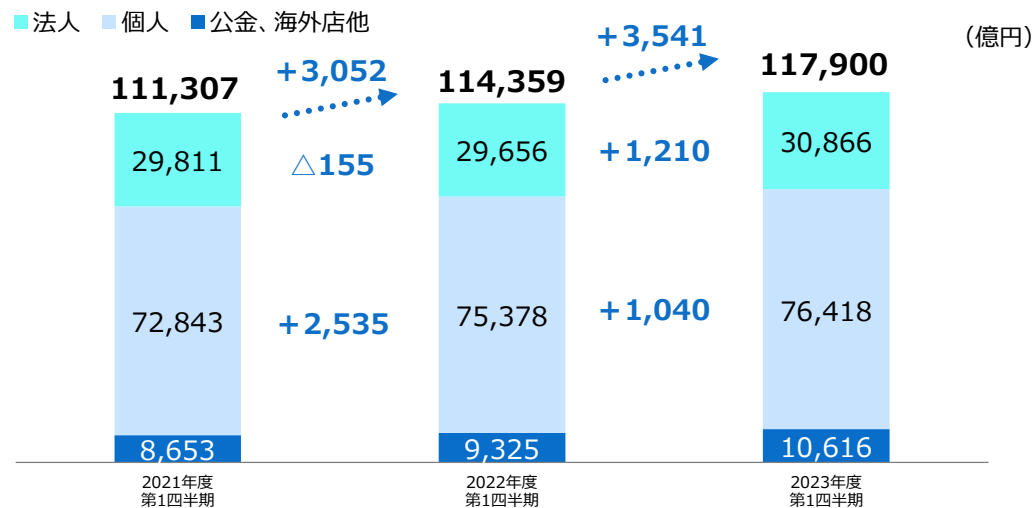
# 預金（静岡銀行単体）

総預金残高（平残）は、法人預金・個人預金ともに増加基調を維持（年率+3.0%）

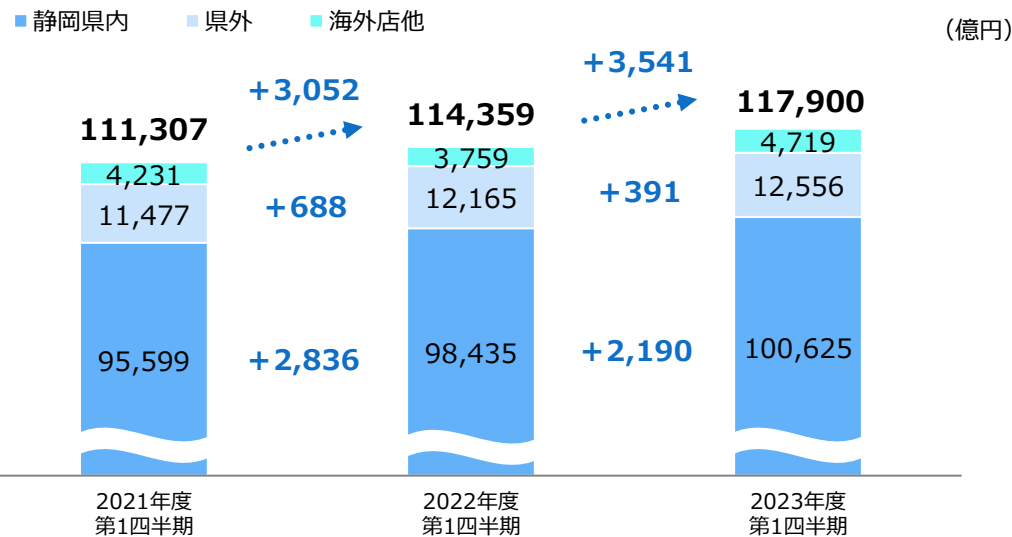
## 預金残高（平残）の推移

	2023年度 第1四半期	前年同期比 増加額	年率
総預金	11兆7,900億円	+3,541億円	+3.0%
静岡県内預金	10兆625億円	+2,190億円	+2.2%
法人預金	3兆866億円	+1,210億円	+4.0%
個人預金	7兆6,418億円	+1,040億円	+1.3%
公共預金	3,850億円	+7億円	+0.1%
譲渡性預金	1,248億円	+186億円	+17.4%

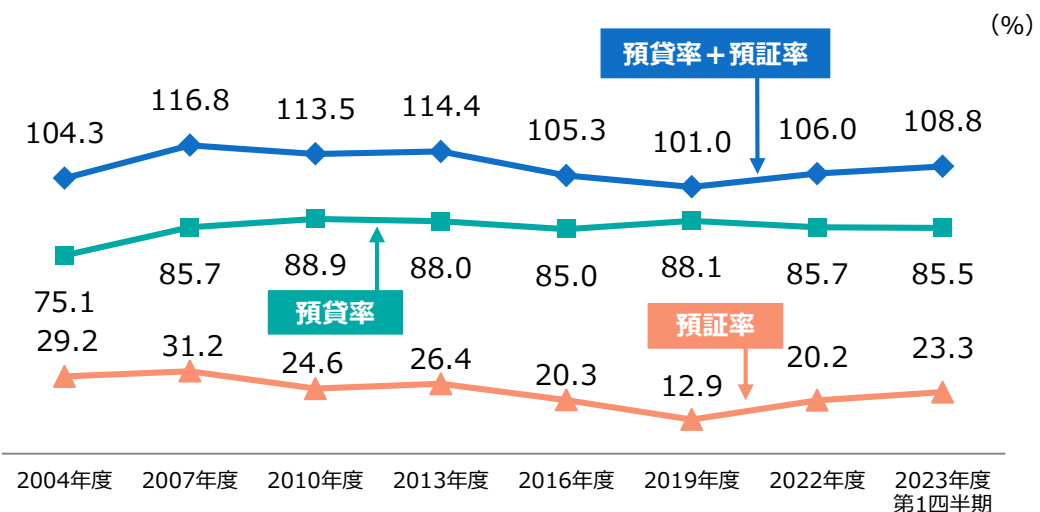
## 預金残高（平残）



## 預金残高（地域別内訳）



## 預貸率・預証率の推移（NCD除き）



# 有価証券① (静岡銀行単体)

中長期的なポートフォリオ構築に向けて円債を中心に計画的に購入。有価証券全体では3,452億円の評価損益を維持

## 有価証券の状況

(億円)	残高※		評価損益		
	2023年6月末	2023年3月末比	2023年6月末	ヘッジ考慮後	2023年3月末比
	27,933	+1,714	+3,452	+3,470	+194
株式	1,011	△8	+3,832	-	+276
円債	17,043	+1,078	△69	△128	+30
(うち国債)	(9,492)	(+931)	(+1)	(△57)	(+16)
外債	6,404	+734	△461	△384	△136
(うち固定)	(3,745)	(+331)	(△152)	(△75)	(△69)
(うち変動)	(2,659)	(+403)	(△309)	-	(△67)
投信	2,371	△155	+19	-	+17
その他	1,105	+65	+131	-	+7

平均残存期間 (金利ヘッジ済分は除く)

※ 残高は評価損益を除く取得原価ベース

	2022年3月末	2022年6月末	2023年3月末	2023年6月末
円債	6.17年	6.16年	6.12年	7.07年
外債	4.15年	2.35年	2.48年	2.96年

## 有価証券関係損益

(億円)	2022年度第1四半期	2023年度第1四半期	前年同期比
有価証券利息配当金	84	136	+52
うち円債	9	22	+13
うち外債	14	57	+43
うち投信 (うち解約損益)	4 (3)	1 (1)	△3 (△2)
国債等債券関係損益	△84	14	+98
うち売却益	44	40	△4
" 売却損・償還損(△)	128	26	△102
株式等関係損益	69	60	△9
うち売却益	70	60	△10
うち売却損・償却 (△)	1	0	△1

## 外貨 (米ドル) ポートフォリオの構造

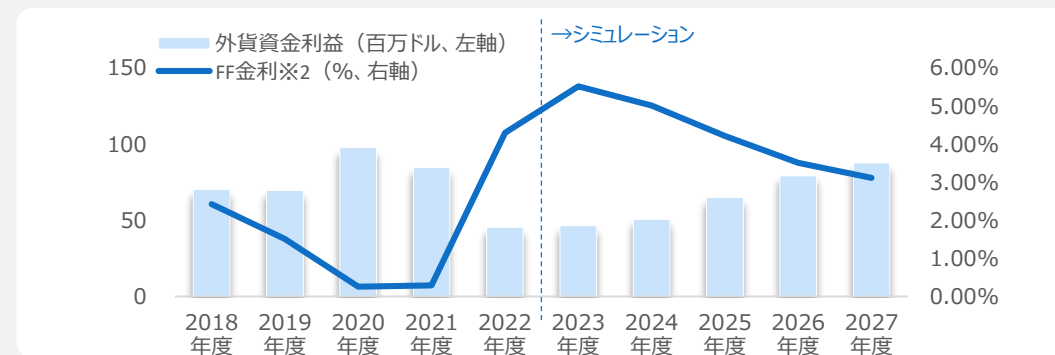
資産	負債
貸出金等 40%	顧客預金等 22%
債券 36%	中長期市場調達 23%
市場性運用 20%	短期市場調達 55%
その他 4%	

### 【外貨ポートフォリオ運営の特徴】

- 顧客預金等** 地域や業種等の分散とともに滞留性を重視
- 中長期市場調達** 調達方法や年限、地域の分散を重視  
借入金・社債：日銀借入、リテール外債等  
有担保調達：円との長期交換による通貨スワップ
- 貸出金** 利回り重視に加え、全て変動金利型の貸出金で構成  
金利変動に依らず一定のスプレッドを確保
- 債券** 外国国債等、流動性が特に高い資産が大半を占め、資金化が容易な債券を保有  
調達は、債券レポを中心とした短期市場調達を活用

## 外貨ポートフォリオ (資産負債) 全体の資金利益※1見通し

- 外債運用において逆ザヤも存在するが、外債の運用調達とも多様化しており、外貨資金利益全体ではプラスを確保
- 2022年度に実施した米ドル債の入替オペレーション等、資産サイドの利回り向上により、FF金利のピークが見込まれる2023年度も前年同水準の利益を確保し、以降は増加に転じる見通し



※1 貸出金、有価証券、預金、社債などを含む全体の資金利益 ※2 FF金利は市場参加者による見通し

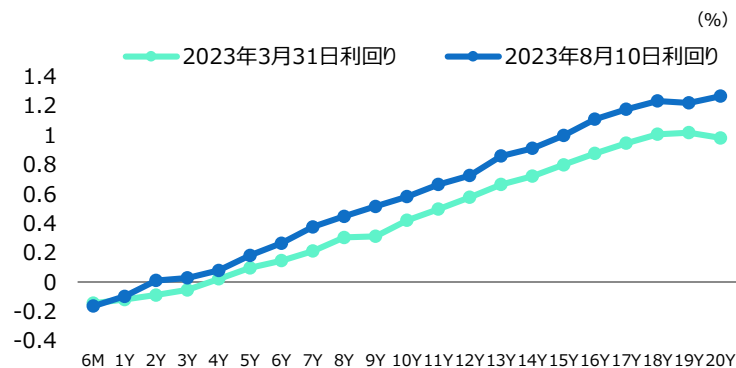
(2023年6月末時点のポートフォリオに基づく試算)



# 有価証券② - 円貨長期金利上昇の影響

預金の粘着性が相応に認められる中、円貨長期金利の上昇は、円貨バランスシート全体でポジティブに作用

## 日本銀行イールドカーブコントロール修正



## ①短期的な影響

- 今後の金利上昇は、保有する円債の評価損益の悪化要因となりうるが、安定かつ金利感応度が低いコア預金とのバランスから利ざやは確保

### 評価損益

(単位：億円)

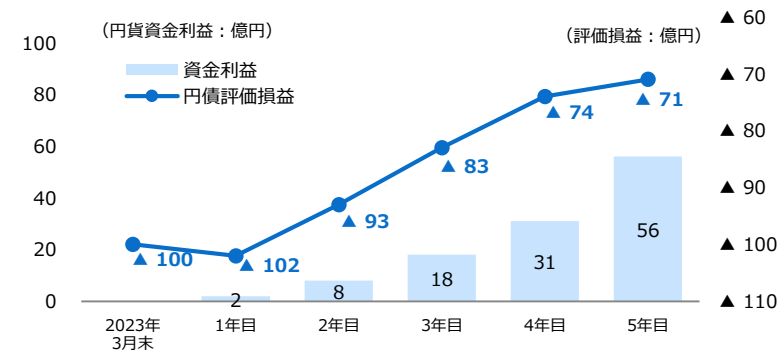
	有価証券 評価損益	有価証券			
		株式	円債	外債	投信・ その他
2022年6月末	+2,795	+3,039	△110	△217	+83
2023年6月末	+3,452	+3,832	△69	△461	+150
2022年6月末比	+656	+793	+40	△244	+67

## ②中長期的な影響

- 貸出金・債券の金利更改により、円貨資金利益は増加
- 円債評価損益も残存期間の短期化により改善

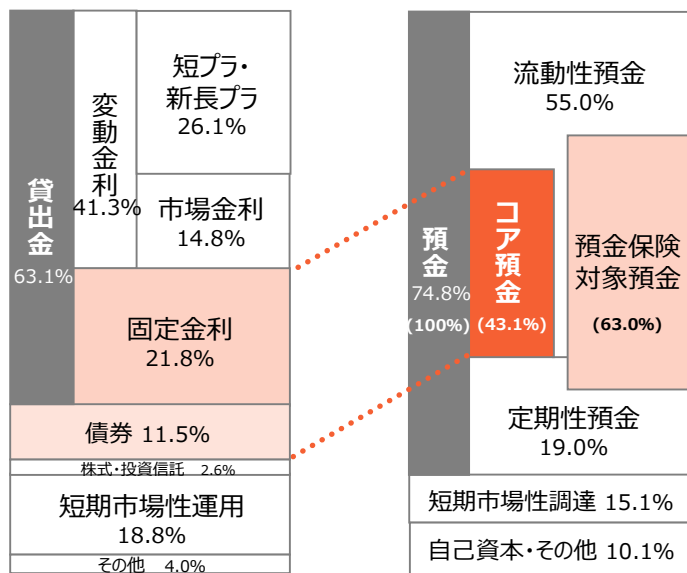
<前提条件> (2023年3月末のポートフォリオに基づき試算)

- 固定金利貸出金の期日到来時、金額の50%は市場金利上昇を反映して更改 (消費者ローン除く)
- 円貨債券の期日到来時、全額市場金利上昇を反映して同額を購入



## 円貨ポートフォリオの構造 (2023年6月)

資産 (100%) 14兆9,288億円 負債・資本 (100%)



## 預金調達構造

- 個人の小口預金を中心に、安定した調達基盤を構築
- 静岡県内における預金シェアは順調に拡大

預金者別	2020年3月末	2023年3月末
	個人預金	71.5%
法人預金	24.2%	26.2%
その他	4.3%	4.5%

金額階層別	2020年3月末	2023年3月末
	～1,000万円	49.2%
1,000万円～1億円	30.3%	32.5%
1億円～	20.4%	23.0%

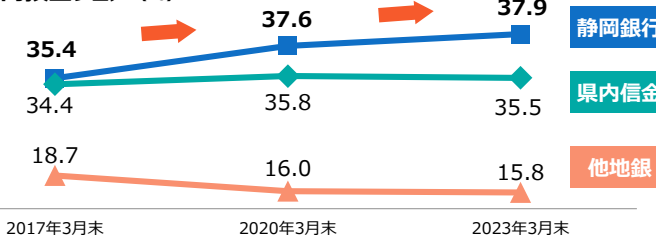
## 円貨バランスシート 評価損益の変化 (10bpv)

(単位：億円)

資産		負債・資本	
10bpv	▲270	10bpv	+314
うち貸出金	▲158	うち預金	+236
うち債券	▲112	うちコア預金	+217
<b>資産・負債・資本の合計 (10bpv)</b>		<b>+44</b>	

※10bpv：資産・負債等について、時価評価したと仮定した場合における金利バラレル+0.1%上昇時における評価損益の変化  
資産+負債・資本の10bpv合計がプラスの場合、評価損益・将来収益にプラスに働くことを示す

## 静岡県内預金シェア (%)



# 役務取引等利益

役務取引等利益は、連結ベースで増加基調を維持

## 役務取引等利益

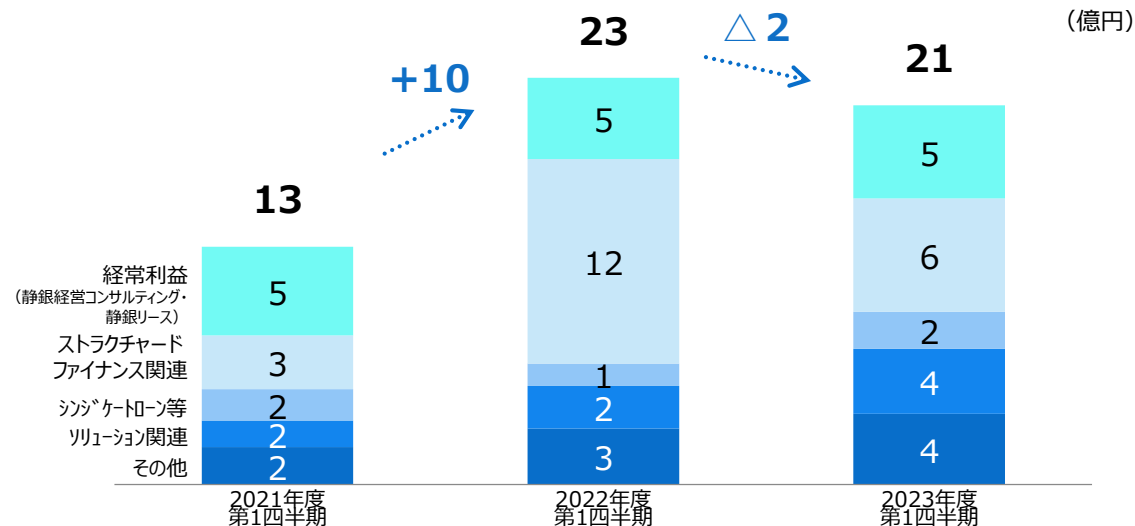
(億円)	2021年度 第1四半期	2022年度 第1四半期	2023年度 第1四半期	前年 同期比
【連結】役務取引等利益	76	98	113	+15
【静岡銀行単体】役務取引等利益	37	59	70	+10
役務取引等収益	74	83	89	+6
役務取引等費用(△)	37	24	19	△4※

※うち団信配当金増加による減少分△5億円

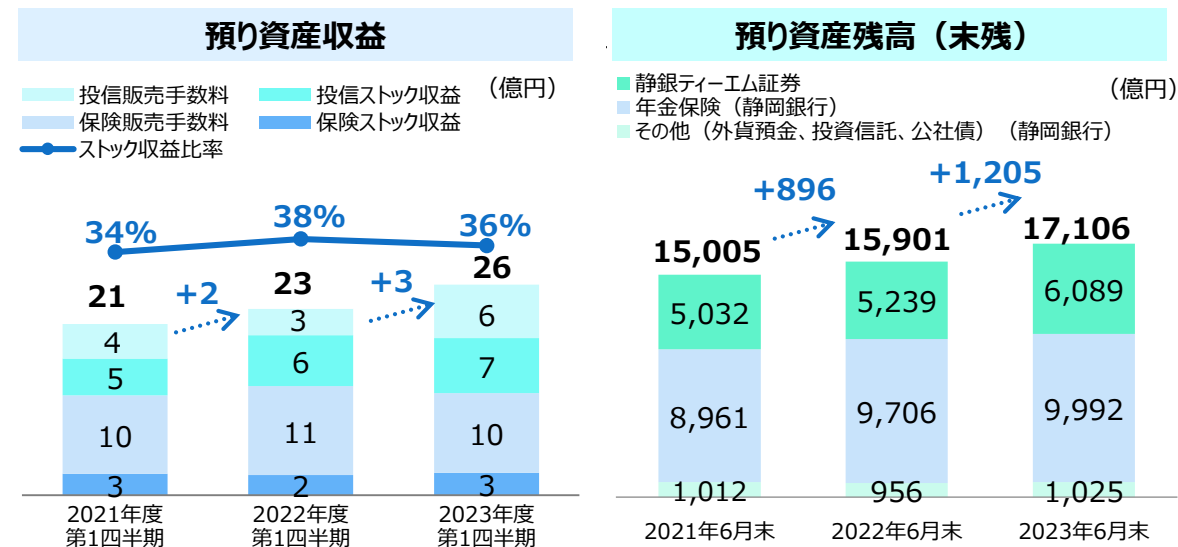
### 静岡銀行主要利益項目

法人関連	8	18	16	△2
ストラクチャードファイナンス関連	3	12	6	△5
シンジケートローン等	2	1	2	+1
ソリューション関連 (ビジネスマッチング、補助金支援等)	2	2	4	+1
その他(コバナンツローン・PIF等)	2	3	4	+1
その他融資関連(住宅ローン取扱手数料等)	10	8	13	+5
預り資産関連	12	14	13	△1
投信	1	1	1	△0
保険	12	13	12	△1
為替手数料(収支)	15	13	13	△0

## 法人関連収益(静岡銀行・静岡経営コンサルティング・静岡リース)

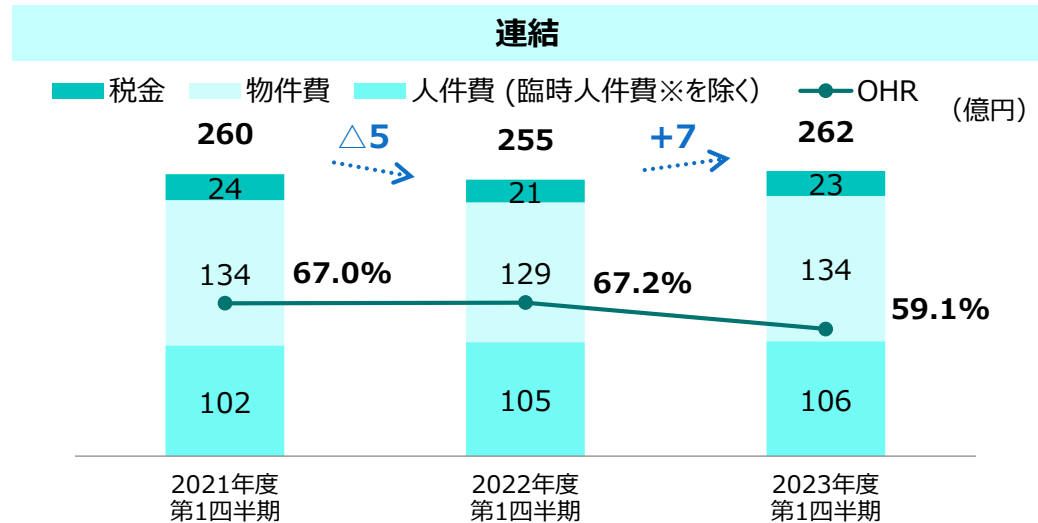


## 預り資産収益・残高(静岡銀行・静岡ティーム証券)

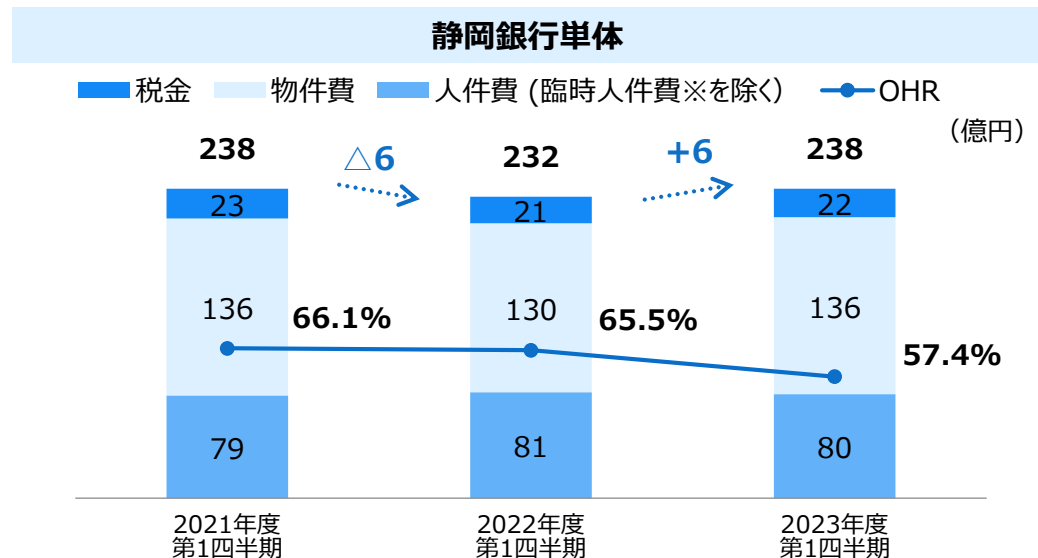


システム関連費用を中心に物件費が増加したものの、連結OHRは59.1%（前年同期比▲8.1pt）へと低下

## 経費およびOHRの推移



※退職給付費用における数理計算上の差異償却額など



※退職給付費用における数理計算上の差異償却額など

## 経費の主な増減要因

**連結**

	増減額	主な増減
税金	+1億円	静岡銀行+1億円
物件費	+5億円	ソフトウェア利用料+3億円
人件費	+1億円	静岡銀行△1億円 SFG+2億円
<b>合計</b>	<b>+7億円</b>	

**静岡銀行単体**

	増減額	主な増減
税金	+1億円	外形標準課税+1億円
物件費	+6億円	ソフトウェア利用料+3億円
人件費	△1億円	給与等△1億円
<b>合計</b>	<b>+6億円</b>	

[参考]

次世代勘定系システム関連経費	30億円 (前年同期比△2億円)
----------------	------------------

# 与信関係費用（静岡銀行単体）

## 与信関係費用全体で前年同期比増加も、低水準で推移

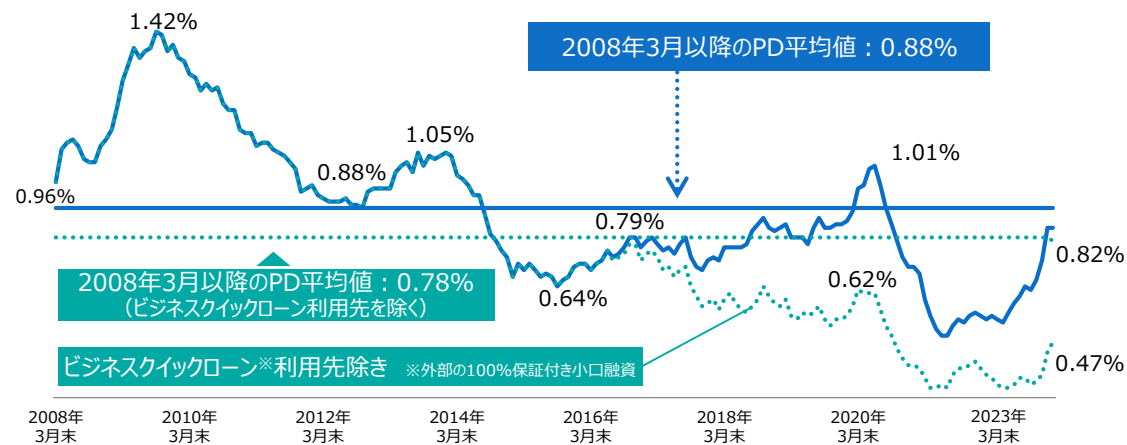
### 与信関係費用の内訳

(億円)	2021年度 第1四半期	2022年度 第1四半期	2023年度 第1四半期	前年 同期比
【連結】与信関係費用	14	9	15	+6
【静岡銀行単体】与信関係費用	11	7	10	+4
一般貸倒引当金繰入額	1	△0	△6	△6
個別貸倒引当金繰入額	10	6	16	+10
その他不良債権処理額 ※	0	1	1	△0

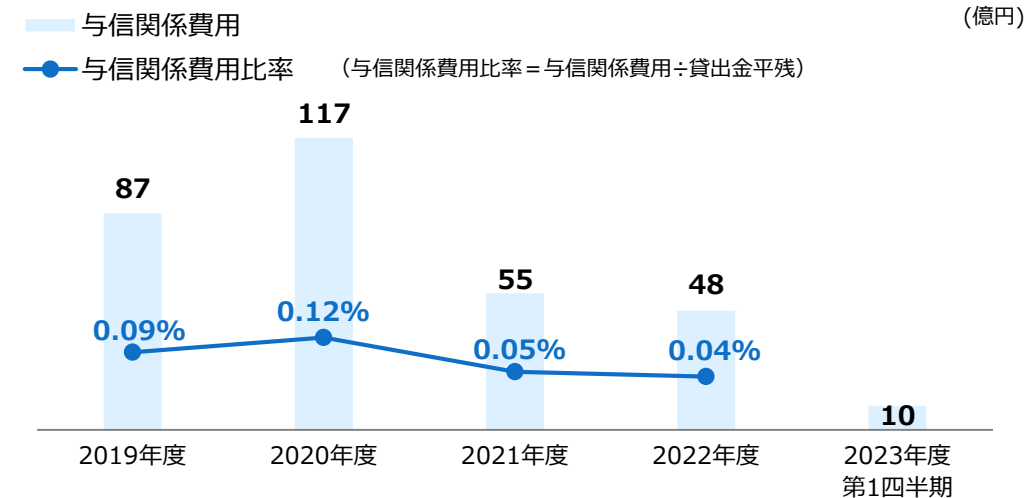
※ 信用保証協会負担金、偶発損失引当金繰入額、貸出債権等売却損などを含む

### デフォルト確率（PD）の推移

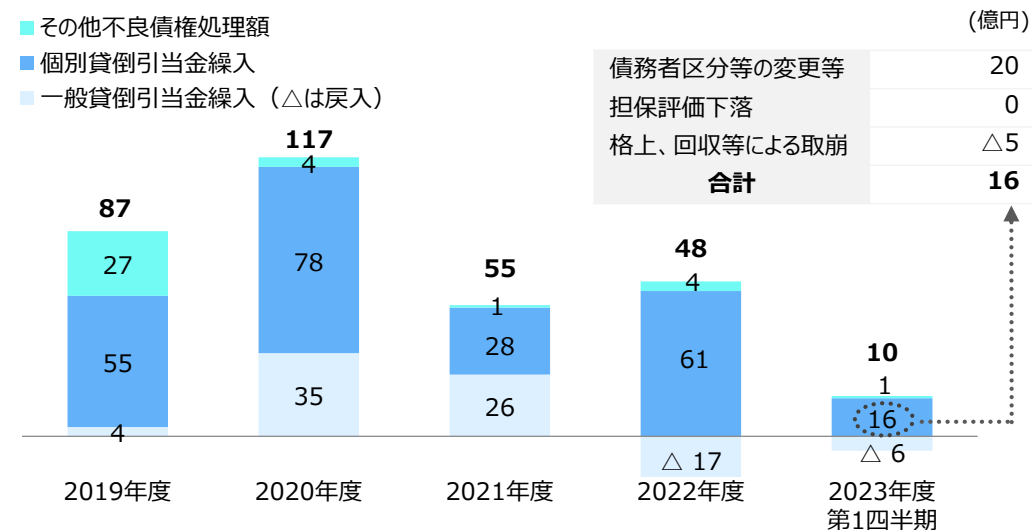
※正常先、要注意先のPD（先数ベース）



### 与信関係費用・与信関係費用比率の推移



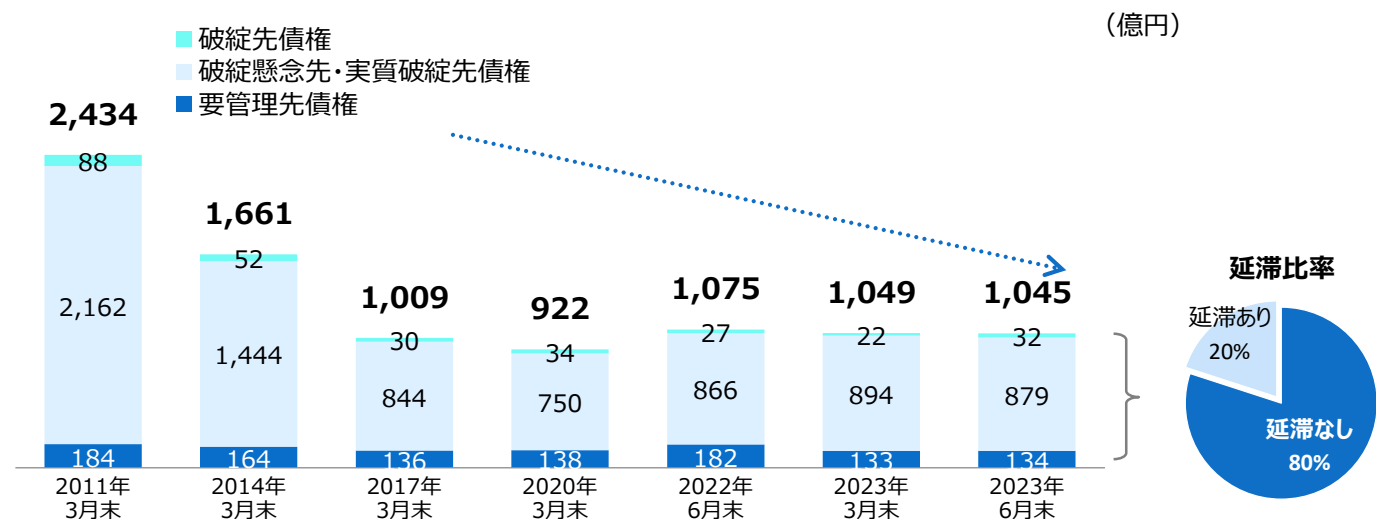
### 引当金繰入額およびその他不良債権処理額の推移



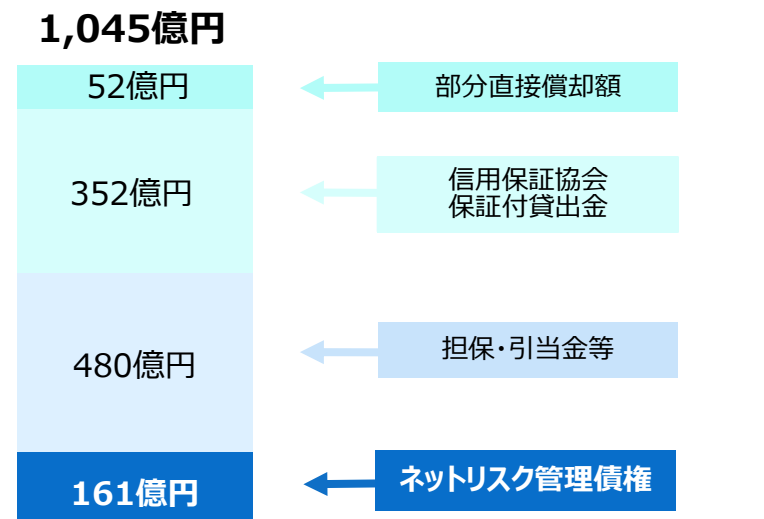
# リスク管理債権（金融再生法開示債権）（静岡銀行単体）

リスク管理債権は前年同期比減少し、リスク管理債権比率は低水準で推移

## リスク管理債権の推移



## ネットリスク管理債権



EL（今後1年間の期待損失額）：11億円

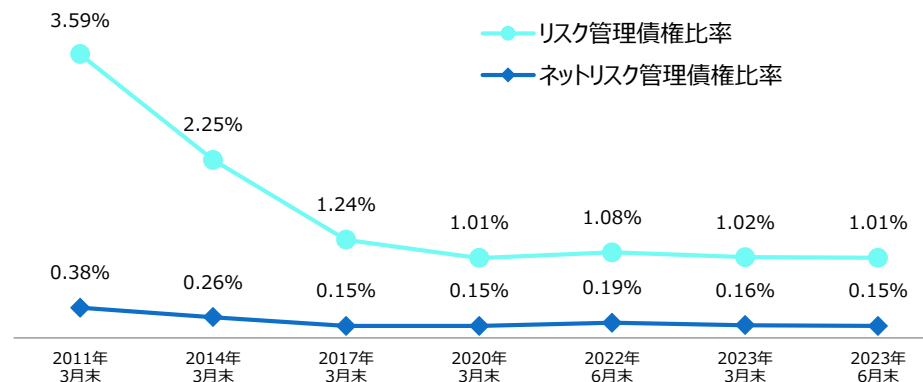
## 不良債権のオフバランス化実績

(億円)	2022年度	2023年度 第1四半期
新規発生	+345	+59
オフバランス化 (うち破綻懸念先以下)	△280 (△243)	△62 (△52)
リスク管理債権	1,049	1,045

△52億円の内訳

本人弁済・預金相殺	△8
担保処分・代位弁済	△36
格上	0
債権売却	△8

## リスク管理債権比率推移

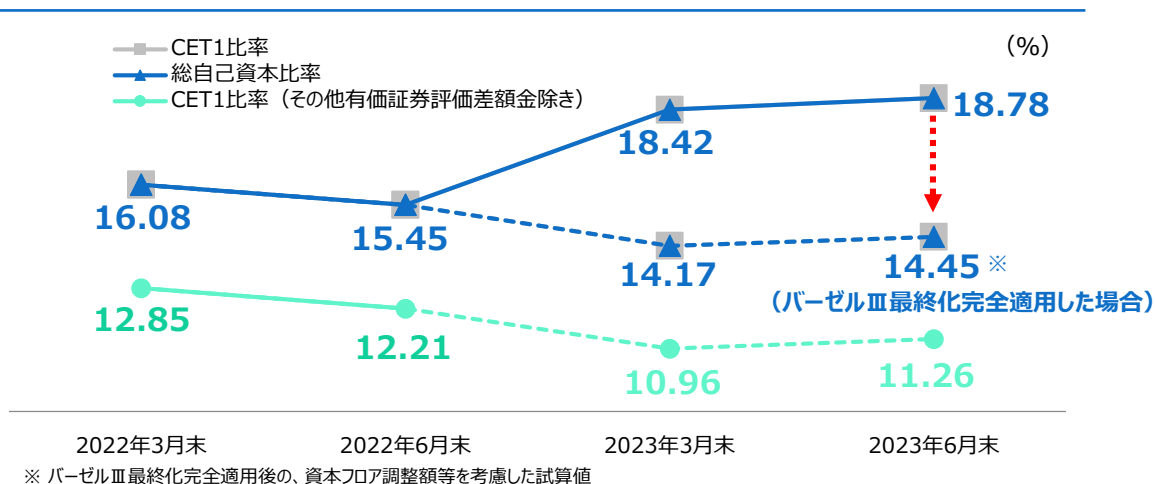


# 自己資本比率

総自己資本比率およびCET1(普通株式等Tier1)比率は18.78% (2023年3月末比+0.36pt)

バーゼルⅢ最終化適用初年度はリスク・アセットの減少要因の影響が大きく、2023年6月末時点のバーゼルⅢ最終化の完全適用後の試算値は14.45%

## 自己資本比率



## 自己資本およびリスク・アセット等の推移

【バーゼルⅢ】	(億円)	2022年3月末	2022年6月末	2023年3月末	2023年6月末	2023年3月末比
<b>自己資本※</b>		<b>9,654</b>	<b>9,385</b>	<b>10,061</b>	<b>10,325</b>	<b>+264</b>
CET1		9,654	9,385	10,061	10,325	+264
その他有価証券評価差額金除き		7,716	7,420	7,782	7,916	+135
その他Tier1		—	—	—	—	—
Tier2		—	—	—	—	—
<b>リスク・アセット</b>		<b>60,012</b>	<b>60,735</b>	<b>54,593</b>	<b>54,979</b>	<b>+386</b>
信用リスク・アセットの額		56,721	57,439	52,836	53,223	+387
マーケット・リスク相当額に係る額		202	206	6	5	△1
オペレーショナル・リスク相当額に係る額		3,090	3,090	1,751	1,751	±0

※ 自己資本には、優先株式、劣後債等を含まない

## (参考) バーゼルⅢ最終化の影響

### 【主な影響】

#### ① 事業法人向け与信LGD※1設定値引下げ (金融当局設定値)

2022年3月	2023年3月	
45%	40%	⇒リスク・アセットの減少要因

#### ② スケーリングファクター※2の廃止 (金融当局設定による廃止)

2022年3月	2023年3月	
1.06倍	(廃止)	⇒リスク・アセットの減少要因

※1 デフォルト時損失率 (1-回収額) ※2 内部格付手法における信用リスク・アセット額に乗じる掛け目

#### ③ 資本フロア※3の段階適用 ⇒リスク・アセットの増加要因

2023年3月	2024年3月	2025年3月	2026年3月	2027年3月	2028年3月
50%	55%	60%	65%	70%	72.5%

⇒ 2023年3月期はフロア適用に至らず。2028年3月期にかけて段階的に引き上げられ、リスク・アセットが増加する見通し

※3 リスク・アセットの下限值

## 銀行勘定の金利リスク (IRRBB) (連結ベース 2023年6月末)

■ 重要性テスト結果: ΔEVE (Economic Value of Equity)  
(銀行勘定の金利リスクのうち、金利ショックに対する経済的価値の減少額)

経済的価値減少額	Tier1	重要性テスト結果(※)
609億円	10,325億円	5.8% ≤ 15%

※ 金融庁監督指針によりΔEVEがTier1資本の15%以下であることが求められている

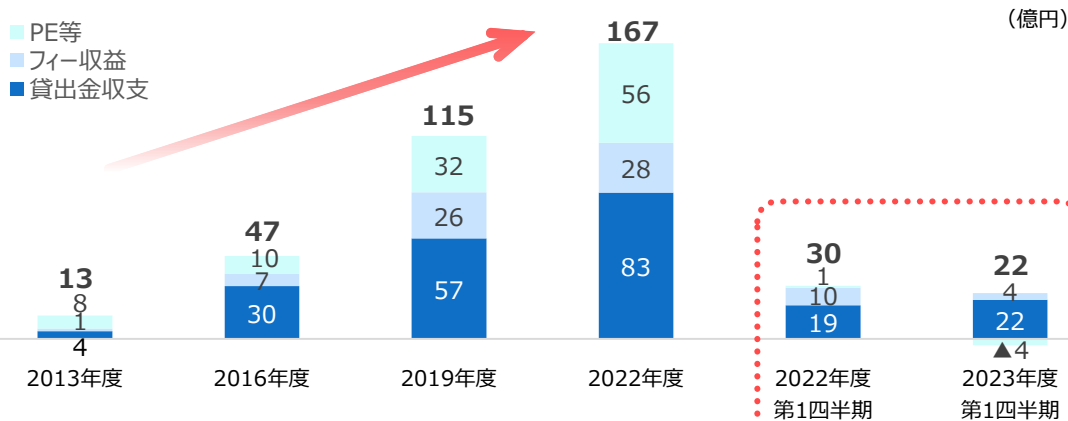
■ ΔNII (Net Interest Income) : 97億円  
(銀行勘定の金利リスクのうち、金利ショックに対する金利収益の減少額)



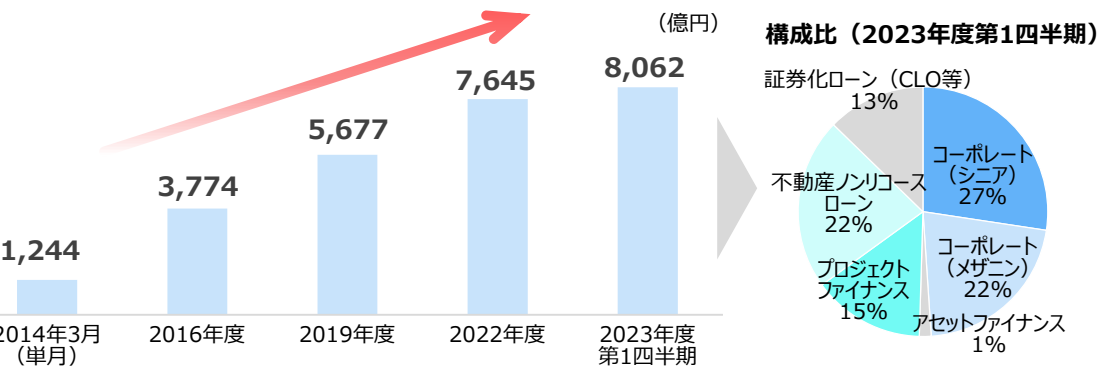
# ストラクチャードファイナンス（静岡銀行単体）

2013年度の取組み開始以降、適切なリスク・リターン分析のもと、資産の健全性を維持しながら投融資分野の開拓に取組み、獲得収益の拡大を実現

## ストラクチャードファイナンス 収入推移



## SF貸出金 残高推移 (平残)、構成比



分散を効かせたポートフォリオ (円貨：外貨 = 6：4)

99%が正常先に分類

不動産ノンリコースローン LTV平均57.6%

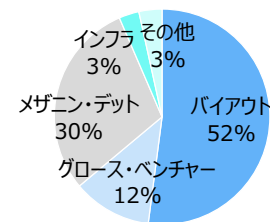
CLO残高 (2023年6月末)  
1,245億円 (28明細：平均44億円)  
全てAAA格  
劣後比率は35.0%~41.8%

SF貸出金の収益性指標	2022年度 第1四半期	2023年度 第1四半期	前年同期比
ROA (総資産利益率)	1.09%	1.09%	△0.00pt
RORA (リスク・アセット対比利益率)	1.72%	1.88%	+0.16pt

## プライベートエクイティ投資

- 毎年継続的に投資し、時間的分散が機能したポートフォリオを構築
- 国内外の様々な種類のファンドにバランス良く投資を行い、地域分散、戦略分散の効いたポートフォリオを構築
- 直近5年平均の利回りは8%以上の水準を確保

構成比 (2023年度第1四半期)



## 【プライベートエクイティ投資の実績推移 (私募リート・不動産ファンドを除く)】

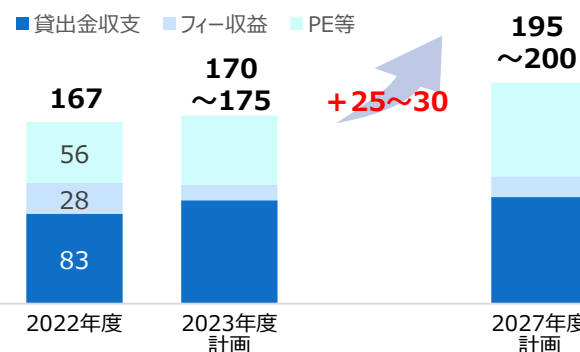
(億円)	2013年度	2016年度	2019年度	2022年度	2023年度 第1四半期
出資コミット額 (年間)	47	89	108	219	20
出資コミット額 (累計)	140	367	661	1,291	1,358
うち国内	140	277	455	632	629
うち海外	0	90	206	659	729
投資損益 (年間)	7	2	17	44	△6*
評価損益 (期末時点)	+12	+5	+36	+101	+106

※収益の計上は中間決算、年度決算の年2回

## 今後の取組方針

- ROA・RORAを意識した残高の積上げ
- LBOローンや不動産ノンリコースローンの案件組成による収益獲得
- 組成案件のディストリビューションと既往アセットの売却を通じた資産回転型ビジネスの収益化

## 【今後の収益計画】



# 地方銀行とのアライアンス戦略

アライアンス提携行と、さまざまな分野での協業によりシナジー効果を発揮し、地域の持続的な発展を目指す

## 静岡・山梨アライアンス (2020年10月～)

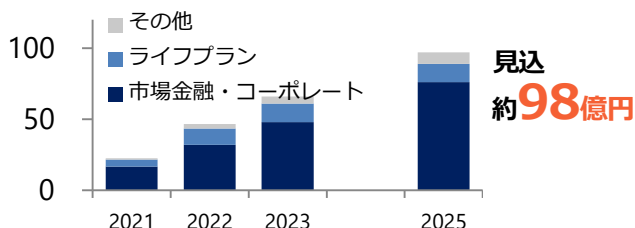


地方創生、市場金融（ストラクチャードファイナンス等）、ライフプラン（静銀ティーエム証券等）を中心に、**100億円以上（5年累計・両行合計）**の収益効果実現を目指す

### 2023年度第1四半期実績

約**19.5億円**  
単年度目標比 **89.1%**

### 5年換算（見込）



### 主な実績 (2023年度第1四半期迄)

#### ライフプラン分野 **経営資源の相互活用**

**静銀ティーエム証券（山梨本店）**  
 預り資産販売額 **393億円**  
 預り資産残高 **266億円**  
 連携強化を目的に**20名の人財交流**を実施

#### ファイナンス分野 **経営資源の相互活用**

不動産ノンコースローン等の実行 **18件/850億円**  
 シンジケートローン等の共同組成 **18件/291億円**

#### 事業承継ファンド **両県経済の発展**

**「静岡・山梨みらい成長支援ファンド」**  
**3件/1億円**

#### 販路拡大支援 **両県経済の発展**

個別商談会開催 **22回**  
 ビジネスマッチング成約 **128件**

#### 共同商品の開発 **三行連携**

変額保険「つみたて果実」(11月)  
 個人年金保険「じぶん年金☆介護プラス」(6月) **NEW**

#### 災害時協定 **三行連携**

大規模災害等の発生時の、預金払戻にかかる相互支援体制を構築



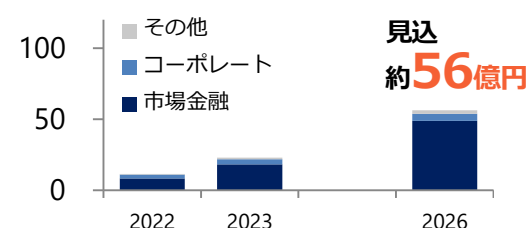
## 静岡・名古屋アライアンス (2022年4月～)

地域産業の構造変革に対する取引先支援を中心に据え、お客さまの課題解決とトップライン拡大・コスト削減に取組み、**100億円以上（5年累計・両行合計）**の収益効果実現を目指す

### 2023年度第1四半期実績

約**11.5億円**  
単年度目標比 **79.3%**

### 5年換算（見込）



### 主な実績 (2023年度第1四半期迄)

#### 産業変革支援に資する取組み **産業変革支援**

**自動車サプライチェーンの整理**  
**「静岡・名古屋アライアンスファンド」設立** **NEW**  
 事業再生分野における**人財交流（2名）**  
 ■ 両行共同出資による事業変革支援ファンド  
 ■ 主に二輪・四輪関連事業者等の支援を強化

#### ファイナンス分野 **経営資源の相互活用** **産業変革支援**

シンジケートローン等共同組成 **9件/80億円**（うち**1件/9億円**が産業変革関連業種）  
 LBO、不動産ノンコースローン等の実行 **5件/231億円**（うち**1件/56億円**が産業変革関連業種）  
 M&A案件相互紹介**19件**（うち**4件**が産業変革関連業種）  
 協調融資案件相互紹介**27件**（うち**7件**が産業変革関連業種）  
 ベンチャーファンドへの共同出資 **2件/26億円**

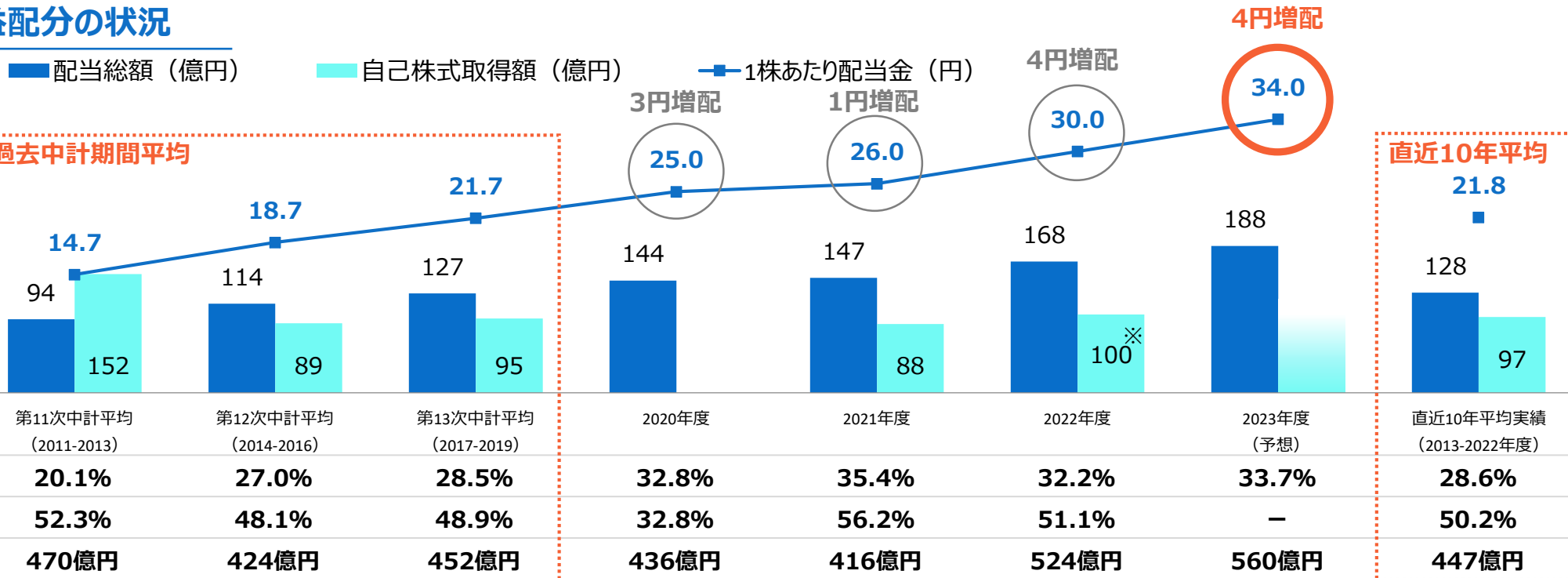
#### 各種イベントの開催 **産業変革支援**

中国コロナ対応Webセミナー  
 ～ロックダウン後の中国経済の見通しと課題～  
 EV化対応 部品・構造解説Webセミナー  
 水素Webセミナー  
 ～次世代燃料としての魅力～  
 インボイス対応セミナー

# 株主還元

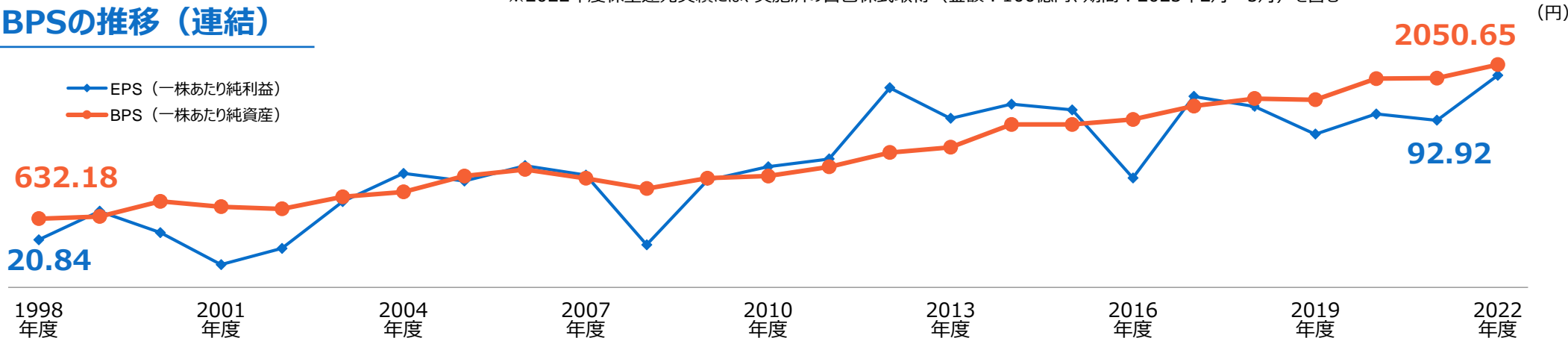
2027年度までに「配当性向40%以上」への累進的な引き上げを目指すとともに、自己株式取得は株価を含めた市場環境等を踏まえ機動的に実施していく。総還元を意識しつつ、ROEおよびEPS、BPSの持続的な向上を目指す

## 株主への利益配分の状況



※2022年度株主還元実績には、実施済の自己株式取得（金額：100億円、期間：2023年2月～5月）を含む

## EPS/BPSの推移（連結）



# 2023年度業績予想

2023年度第1四半期実績（連結）は、経常利益233億円（進捗率29.1%）、四半期純利益165億円（同29.4%）と順調に進捗

（億円）

		2021年度 実績	2022年度 実績 (A)	2023年度 予想 (B)	前年度比 (B-A)	2023年度 第1四半期 実績 (C)	進捗率 (C÷B)
連 結	経常利益	542	740	800	+60	233	29.1%
	親会社株主に帰属する 当期純利益	416	524	560	+36	165	29.4%
	ROE	3.8%	4.6%	5.0%	+0.4pt	5.6%	—
	OHR	64.2%	60.2%	58.3%	△1.9pt	59.1%	—
	CET1比率	16.08%	18.42% (14.17%)	17.14% (13.44%)	△1.28pt (△0.73pt)	18.78% (14.45%)	—
静 岡 銀 行 単 体	業務粗利益	1,347	1,443	1,510	+67	414	27.4%
	資金利益	1,245	1,216	1,250	+34	331	26.5%
	役務取引等利益	148	211	215	+4	70	32.4%
	特定取引利益	9	14	15	+1	2	14.0%
	その他業務利益	△55	2	30	+28	12	38.5%
	経費 (△)	882	869	890	+21	238	26.7%
	経常利益	453	676	710	+34	229	32.3%
	当期純利益	361	462	490	+28	169	34.5%
	与信関係費用 (△)	55	48	40	△8	10	25.3%



**本資料には、将来の業績に関わる記述が含まれています。**

**こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。**

**将来の業績は、経営環境の変化などにより、目標対比異なる可能性があることにご留意ください。**

※本資料の金額等は原則として単位未満を四捨五入しています。また、グラフにおける前年同期比の数値の記載は表上で計算しています。

### **本件に関するご照会先**

株式会社 しずおかフィナンシャルグループ 経営企画部 経営企画室 おくもと 納本

T E L : 054-261-3111 (代表)      054-345-9161 (直通)

F A X : 054-344-0131

E - m a i l : [ir@jp.shizugin.com](mailto:ir@jp.shizugin.com)   U R L : <https://www.shizuoka-fg.co.jp/>

しずおかフィナンシャルグループ  
Webサイト〔IRニュース〕

